

NO-MA 2022.3 / VOL.29

ボードレス・アートミュージアム
NO-MA ニュースレター

特別報告

日本博を契機とした障害者の文化芸術フェスティバル

in 近畿ブロック & グランドフィナーレ

イベントレポート

「広瀬浩二郎さんとさわる!つくる!」

Topic of NO-MA

ABColumn

アール・スリュットを巡るコラム VOL.19

地域インタビュー

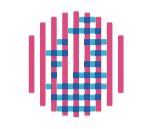
あのひとの近江八幡スタイル
スマリ文具店 店主 藤井 勝氏

日本博を契機とした 障害者の文化芸術フェスティバル in 近畿ブロック&グランドフィナーレ

文：西野裕貴（主任主事）／写真：大西暢夫、office MOAI 伊藤淳一

展覧会「アール・ブリュット-日本人と自然-BEYOND」
〔2.11-3.21〕ボーダレス・アートミュージアムNO-MA他
舞台芸術公演〔2.20〕オンデマンドライブ配信（びわ湖ホール）
バリアフリー映画〔2.12〕近江八幡市文化会館
“農×福×食”イベント〔2.13〕ヴィラ アンジェリカ近江八幡

〔主催〕文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会、
日本博を契機とした障害者の文化芸術フェスティバルに向けた全国会議
〔共催〕2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた障がい者の芸術文化活動推進知事連盟、
滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール
〔後援〕滋賀県教育委員会、大津市、大津市教育委員会、近江八幡市、近江八幡市教育委員会



2020年2月滋賀でのグランドオープニングに始まり、全国7つの地域を巡ってきた本フェスティバルが2022年2月遂に滋賀でグランドフィナーレを迎えました。新型コロナウイルス感染症対策のため、場所や期間を分散しての開催となり、2月11日から3月21日までNO-MA、まちや倶楽部、旧増田邸の3会場にて「アール・ブリュット・日本人と自然・BEYOND」展、2月12日に近江八幡市文化会館にて「バリアフリー映画上映会」、2月13日にヴィラアンジェリカ近江八幡にて「農×福×食イベント」、2月20日にはびわ湖ホールでの「舞台芸術公演」のライブ配信を実施することができました。

グランドフィナーレでは共同創造をテーマに掲げ、障害当事者が出演・出演するだけでなく、制作過程や運営にも参加することを目指しました。展覧会の企画協力、コンサートのプロデュース、舞台芸術公演の司会や各イベントの受付など、障害当事者と共に準備を進めました。新型コロナウイルス感染症の急拡大により実現できなかった企画もありましたが、共に企画を考え進めてきたことで、今までにない新たな関係性が生まれ始めたと感じています。

本フェスティバルはフィナーレを迎えましたが、共同創造の取り組みはここからが始まりです。今後、より深く、より広くこの取り組みを進めていくことで、いつかそれがスタンダードとなることを目指し、これからも誰もが文化芸術を楽しむ企画をし続けていきます。



瑞宝太鼓



ジェネシスオープンシアター



湖南ダンスカンパニー



日本視覚障害者団体連合音楽家協議会

ノマ Topic of NO-MA トピ

日本博を契機とした障害者の文化芸術フェスティバル展覧会関連イベント
「広瀬浩二郎さんとさわる！つくる！」
文：赤澤蒼四郎（自立生活支援員）

「牛にひかれて善光寺参り」のことわざでも有名な長野県の善光寺には、「お戒壇巡り」という、ちょっとおもしろい体験があります。ご本尊が安置されている本堂横の階段を降りると、まったく光がない真っ暗闇に包まれます。本能的に恐怖を感じる空間になっていて、人は不安に包まれるとなかなか一歩を踏み出すことができないと気づかされます。

本フェスティバルにおける共同創造において、国立民族学博物館の広瀬浩二郎さんは「目には見えない感覚を“さわる”」として、展示を構築しました。「目が見えない人でも安全に鑑賞できることを第一に考えた」と話す鑑賞スペースは、腰のあたりに設置した手すりを頼りに

することで、安心して前に進むことができます（展示会場は暗闇ではないので、視覚で作品を楽しむこともできます）。

イヤホンから聞こえる劇作家のごまのはえさんのオーディオドラマ「私の一日」を聞きながら、鑑賞がスタート。物語にあわせるように、手すりが突然「あっち道」と「こっち道」に分かれたり、ひんやりとした感触になったと思ったら、「虹」のようなアーチを描いたり、遊び心たっぷりの仕掛けがちりばめられています。見えない感覚を“さわる”鑑賞は、恐怖ではなく驚きに満ちています。

「私の一日」に登場するお母さんは、芝田貴子さんが描く「お母さん」という作品とリンクし、「お母さん」のイメージがどんどん変化していきます。突拍子もないアドバイスをして混乱させたり、急に怒り出してしまったり。手すりの途中に置かれた「お母さん」の触図（絵を立体にして触れるもの）や木材でかたどった「お母さん」に触れること



参加者それぞれの「お母さん」も会場に展示されました

で、また新しいインスピレーションが生まれます。

広瀬さんがイベントで提案したワークショップは、物語の続きを考えて、紙粘土で自分なりのお母さんを作ること。

「僕は最初にこの物語を聞いたとき、『なんだこれは？』と思ったんです。でも、何度か聞いているうちに自分なりの解釈が持てるようになった。名作って、人によっていろいろな感じ方ができるものだと思います」と広瀬さん。

そんなヒントを胸に、参加者は手すりに導かれて自分なりのお母さん像を結んでいきます。冒頭で紹介した「お戒壇巡り」は、暗闇の中でご本尊真下に置かれた錠前に触れることで、ご本尊との結縁（つながるこ

と）が得られます。会場の最後に大きく展示されていたお母さんの触図に触れて、参加者はどんな「お母さん」のイメージを結んだのでしょうか。ワークショップで作られるお母さんは、形も解釈も十人十色。紙粘土で具現化されたそれぞれの「お母さん」を語る時、それは参加した人たちが「見えない感覚」で得た鑑賞を共有する時間になりました。

展覧会の様子は、YouTube「障害者の文化芸術フェスティバル」チャンネルにてご覧いただけます。



<https://bit.ly/29nmtpt>



広瀬浩二郎氏
(国立民族学博物館)



手すりに沿って展覧会場を進みます

障害のある人と 美術鑑賞の間の距離について

—法律の読解をてがかりに、架橋法を考える

文：山田創
(ボーダレス・アートミュージアムNO-MA学芸員)

このコラムでは、近年、活発化する、障害者と美術鑑賞を結び動かすについて考えてみたいと思います。障害者と美術鑑賞を取り結ぶ法律に「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」(2018年公布・施行)があります。同法は、障害者の「創作活動の支援」と「鑑賞の機会拡大」を推進することを狙いとした法律です。

同法第三章「基本的施策」では、国及び地方公共団体に「障害の特性に応じた文化芸術を鑑賞しやすしい環境の整備の促進」が求められ、その具体的手段として「作品等に関する音声、文字、手話等」が例示されています。これらは聴覚障害者や視覚障害者に向けた情報保障です。同時に、障害者が美術館などの文化施設を「円滑に利用できる」とその構造及び設備を整備することとも書かれています。ここから連想されるのは、円滑な移動のための動線確保やスロープ設置であり、対象者としては車いすユーザーなどが想像されるかと思えます。

一方で、同法が「創作活動の支援」をする障害者の作品に対する評価

としては「専門的な教育に基づかずに人々が本来有する創造性」と書かれています。この記述は「アール・ブリュット」という美術用語と重なり、その作者としては、精神障害者や知的障害者を主として想定しているであろうと考えられます。こうした状況をちょっと極端に構図化したとき、「鑑賞の機会拡大」の面においては身体障害者が、「創作活動の支援」の面においては精神・知的障害者が対象となっているという風にも読めてしまい、同法上の「障害者」の定義における潜在的な分断があるといえるかもしれません。

とはいえ、精神・知的障害者と美術鑑賞の架橋は簡単なテーマではありません。なぜなら、身体障害に起因する課題に対しては、それぞれ法律が定めるように、ある程度共通した方針が見出せる一方、精神・知的障害者というカテゴリは、たとえば「精神障害者はこうしたい」といい、知的障害者はこうすればいい」といった風に、共通化を図って全体的解決を模索すること自体が極端なグルーピングにつながりかねないからです。

前述したように、情報保障や設備の充実化は、障害のある人と美術鑑賞をつなぐ架け橋であり、法律はその強力なバックアップです。しかしながら、これと同時に、「障害者」というくくりの中に、決して全体化できない、独立した個々からなる群像をイメージする必要があります。あたりまえのことですが、精神・知的障害者は同じ感受性をもった集団では決してなく、それぞれの趣味趣向を生きる個別

の人たちであることを忘れてはなりません。では、どう考えればよいでしょうか。最近、「ちょっとヒントになるかも」という出来事に触れました。NO-MA 展示会の出展者のお母さまからメールをいただいたのです。曰く「娘と一緒に展示会に行きたいが、娘は風船がとんでも気になつてしまふ性格で、道中に風船があるかどうか先に確認したい」とのことでした。

わたしは経路上や近隣に風船がないことを確認し、「大丈夫ですよ」と事前にお伝えしました。無事にその方は来館され、マイペー

スにNO-MAでの時間を過ごされたようです。「風船があるかどうか」は、きわめて個人的なニーズで、多くの人にとってはどうでもよいことです。しかし時に、ニーズは致命的に個人的なことです。「この障害者にはこうするべき」という定式化をわきに置いて、できるだけ、個人のニーズに向き合うこと——そんな架橋法をケースバイケースで考えるべきなのではないかと思っています。ニーズが多様化し、その支援法がマニュアル化できないとき、果たして対応側はついていけるのか、という意見もわかります。たしかにすべてのニーズに逐一答えるのは非合理的で、とてもできたことではありません。ですが、風船があるかを確かめるくらいならたやすく、なんならデスクワークを中断できてちょっと楽しくすらあるのです。

わたしは経路上や近隣に風船がないことを確認し、「大丈夫ですよ」と事前にお伝えしました。無事にその方は来館され、マイペー



地域インタビュー ohmi-hachiman local interview

時代の流れとともに、
文具を通じて「愛着」を伝え続ける

スミ利文具店
店主 藤井勝氏

文：橋本悦子(自立生活支援員)

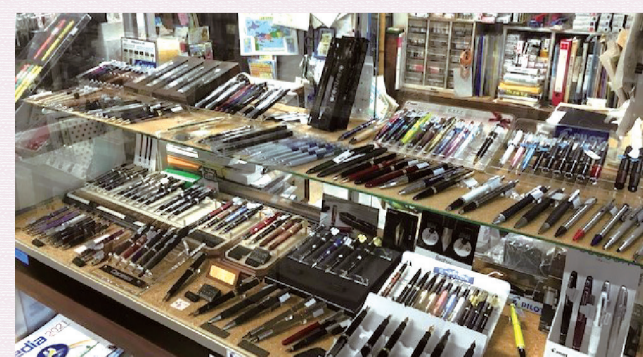


なって。大型の専門店とかができて、太刀打ちできないと感じました。そういった試行錯誤を繰り返し、愛用品となる文具を取り揃えて今の形があります」

時流に沿って文具を仕入れてきた藤井さん。この商店街がどのようなになってほしいかお聞きした。

「この地域に人が来てくれるような仕組みが必要かな。ネット販売でも買えるけど、買いに行こうかなという気持ちになるような商品とか、売り方とか。例えば、『ネットで買った万年筆が書けない』と言ってこられたお客様がいて、掃除や手入れのやり方を伝えたら、インクを買ってくれた。効率を考えたら、『うち知りません』で終わるかもしれないけれど、そういうところから興味を持ってもらって、支持して下さる方を増やすというか。そんなやり取りができるのが商店なんです」

ものが簡単に手に入る時代。ものへの「愛着」が生まれるのはそんなふれあいができる商店があつてこそかもしれない。商店街の新たな時流の予感がした。



年筆などどれも興味深い。

「こういうものを置いていると、県内の方だけでなく、ホームページを見て県外の方も訪ねてくださいます。中高生も、スーパーや100円ショップには置いていない文具を求めて来てくれます」

比較的新しくできた文具以外にも、判取り帳や金封など、古くからある文具のニーズもあるという。「需要は減りましたが、ときどき売れるので仕入れていきます。ただ、こういう紙を作られる紙屋さんがどんどん廃業されてきて、なかなか手に入らなくなりつつあります」

一方で、廃業した会社があつていた便せんなどが復刻され、「レトロ文具」という新たな文具に生まれ変わる動きもある。「新しいものと古いものを折り返して、年々商品構成をしてきました。昔は、人形やプラモデルなんかも仕入れていましたが、ある年からピタッと需要がなく

近江八幡旧市街地中心部にある、あきんど道商店街。

この商店街は、古くからいろんなモノやコトを商う商人が集まり、この地域の経済と文化を支えてきた。今も、明治から続く店舗やまちの風情を残した新しい店舗が立ち並ぶ。そんな商店街の中に、文具愛好家に親しまれるスミ利文具店がある。

新炭類の仲買業を営んでいた「炭家の利八」の名を残し、昭和23年、藤井さんのお父さまが「スミ利文具店」として仲屋町で開店。現在はご子息が後を継がれ、ご家族で経営されている。

店内にはよく見かける文具とともに、文具好きが気になる少々マニアックな商品が目立つ。例えば、琵琶湖のヨシを活用したヨシノート(とび太くん仕様)やうみのこノートなど滋賀ゆかりの「びわこ文具」や、県内でも有数の品揃えを誇る万

あの一の 近江八幡 スタイル



上 / あきんど道商店街の理事長でもある藤井さん
下 / 滋賀ゆかりの「びわこ文具」

品揃え豊富な万年筆

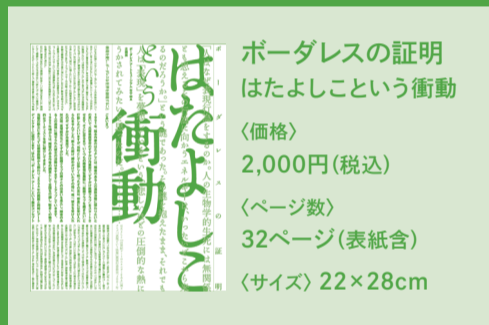
<NO-MAグッズのご案内>

アール・ブリュット作品のメモ帳やトートバッグなど、NO-MAのミュージアムショップやホームページからお買い求めいただけます。

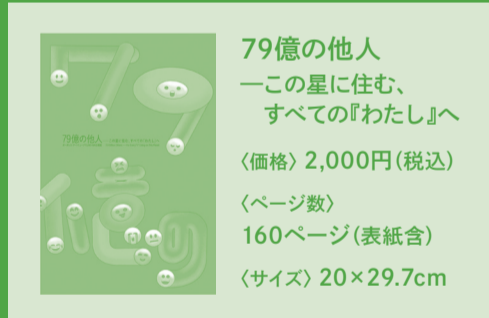


<NO-MA企画展グッズのご案内>

2021年に開催した企画展「ボーダレスの証明 はたよしこという衝動」「79億の他人—この星に住む、すべての『わたし』へ」などの図録を販売しています。NO-MA、またはNO-MAホームページにてお求めください。



ボーダレスの証明
はたよしこという衝動
〈価格〉
2,000円(税込)
〈ページ数〉
32ページ(表紙含)
〈サイズ〉22×28cm



79億の他人
—この星に住む、
すべての『わたし』へ
〈価格〉2,000円(税込)
〈ページ数〉
160ページ(表紙含)
〈サイズ〉20×29.7cm

NO-MA次回企画展 「反復と平和—日々、わたしを繰り返す」

「繰り返し」をテーマに6人の作者の表現を紹介します。

2022年4月29日(祝) ~ 7月31日(日)

11:00~17:00

月曜休館(祝日は開館、翌平日休館)

会場：ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

観覧料：一般300円(250円)、高大生250円(200円)

中学生以下・障害のある方と付添者1名無料

※()内は20名以上の団体料金

主催：社会福祉法人グロー(GLOW)

~生きることが光になる~

NO-MAの情報発信

NO-MAでは、ホームページでの情報発信に加えて、SNSを活用した情報発信も行っています。



NO-MAホームページ
<https://www.no-ma.jp/>



公式Facebook
museumnoma



公式Twitter
museum_noma



公式Instagram
@museum_noma



NO-MAアーカイブ
no-maarchive.com

NO-MA
YouTube
チャンネル
おすすめコンテンツ

企画展「79億の他人」と同時開催した「ニューノーマル時代にアートで人をむすぶプロジェクト」では、「NO-MAご近所、動画なRADIO放送局」を立ち上げ、YouTubeを活用して、ラジオプログラムを配信しました。登場いただいたのは、NO-MAとの関わりが深い皆様です。ぜひご覧ください。

ニューノーマル時代に
アートで人をむすぶ
プロジェクト 特設サイト

<https://new-normal-art-project.com>

特設サイト内の「NO-MAご近所、動画なRADIO放送局」ページより右記のすべての番組をご視聴いただけます。

ぐるりの人たち RADIO

- 第1回 石居佐代子さん・小島加奈子さん
- 第2回 杉之原千里さん(みいちゃんのお菓子工房オーナー)・前田達慶さん(言語聴覚士)
- 第3回 大野宏さん(Studio on_site)
- 第4回 川村嘉男さん・久木茂さん(レイカ34会)
- 第5回 麻生知宏さん・門脇真斗さん(フリースクールSince)
- 第6回 藤田昌喜さん(近江家具商人 代表)
- 第7回 田口真太郎さん(成安造形大学 未来社会デザイン共創機構 助教)
- 第8回 杉田信也さん(近江兄弟高等学校 教諭)
- 第9回 久木富久子さん(びわこ学園 えがお支援員)
- 第10回 塚本千翔さん(神島民泊湖心(ここ)管理、漁師見習い)
- 第11回 大山真さん(デザイナー)
- 第12回 森嶋利成さん(森島商事株式会社 近江牛毛利志満 営業部長)
- 第13回 宮村利典さん(まぢや倶楽部 代表・株式会社Wallaby 代表取締役)

ははー、なるほど RADIO

- 第1回 森美菜子さん・外山聖さん(障害者支援事業所いきいき)・野原健司さん(アーティスト)
- 第2回 八幡亜樹さん(アーティスト)
- 第3回 水上明彦さん(さふらん生活園 施設長)
- 第4回 ジェイド・フレンチさん(リーズ大学美術・美術史・文化研究学部 客員研究員)
- 第5回 前半：野中美智子さん(しが盲ろう者友の会 事務局)・安川雄基さん(アトリエカフェ 代表)
後半：岡田昌也さん(しが盲ろう者友の会 理事長)

編集担当・赤澤誉四郎 【編集後記】

横浜から移住先を求めて、初めて滋賀を訪れたのが3年前の6月1日。抜けるような青空と、目の前に広がる黄金色の麦畑が迎えてくれました。「麦秋(ばくしゅう)」という言葉から、小麦の収穫時期は秋だと思い込んでいたのですが、初夏に収穫される麦は夏の季節でもあるそうです。黄金に実った穂をなでるように、畑の中をさわやかな風が横切っていました。この風には、「麦風(むぎあらし)」という(これも少しイメージと異なる)名前が付付けられていることを後で知りました。

NO-MAという美術館と出会って、地域を巻き込んだ福祉とアートの取り組みに、驚きや発見のある日々を過ごしてきました。小さな優しさや気づきが、誰かの幸せな明日につながっているような、そんなことを真剣に考えて、実現しようとしている人たちに会いました。

「3歩進んで2歩下がる」
すべてがうまくいくわけではないのですが、1歩分、世の中がよくなっているはずですよ。

今日も世界中の麦畑の上空に、抜けるような青空が広がっていますように。

ボーダレス・アートミュージアム NO-MA



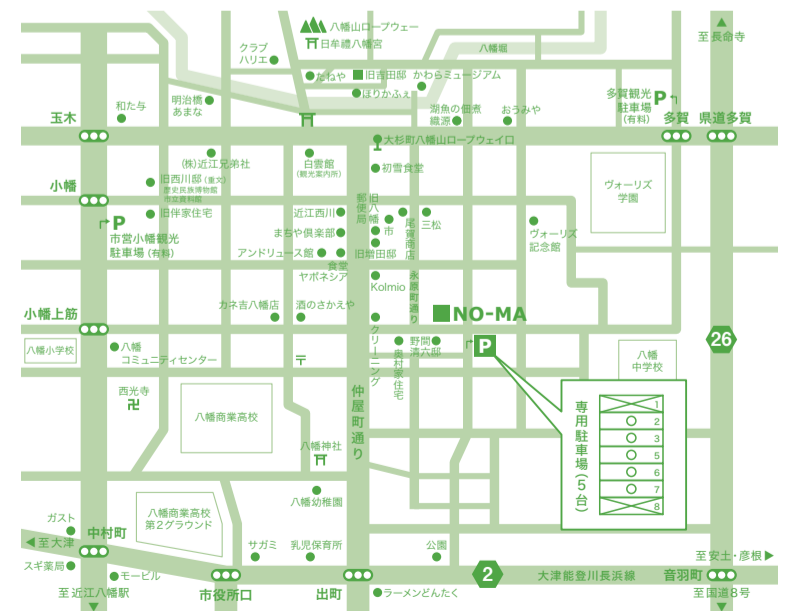
滋賀県近江八幡市永原町上16
TEL/FAX 0748-36-5018

休館日：月曜日
(月曜日が祝日の場合は翌平日休館)

E-mail no-ma@lake.ocn.ne.jp
<http://www.no-ma.jp>



Access アクセス



JR近江八幡駅から近江鉄道バス(長命寺行き)大杉町八幡山ロープウェイバス下車徒歩8分。
名神高速道路・竜王ICより「近江八幡・国道8号」方面へ。
国道8号「西横関」右折、「東川町」左折。県道2号「小船木町」右折、「出町」左折。(計30分)
JR近江八幡駅から徒歩30分、自転車10分。